of Japan. Bot. Mag. Tokyo **24**: 71-84 [72-73]. Ohba, H. 1981. Nomenclatural changes and notes on Japanese Sedoideae. Journ. Jap. Bot. **56**: 181-187. Ohwi, J. 1954. Plantae novae Japonicae. Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo, N. ser., **1**: 1-8. ——— 1965. Flora of Japan. Revised ed. 1560 [693-694] pp. Shibun-do, Tokyo. (In Japanese).

* * * *

本州東北地方と北海道から記載されたイワレンゲ属のコモチレンゲ，コイワレンゲ，レブンイワレンゲの分類について考察を行った。これらはみな *Orostachys malacophyllus* に類似し，主に植物体が粉白すること，走出枝を出すこと，仔吹きをし叢生するなどの特殊性によって上記の種から区別されてきた。観察の結果，叢生する性質をもつコモチレンゲ *O. boehmeri* は他とは異なる球形のロゼットをつくり，その葉形も異なるが，他の分類群では観察した諸形質は変化に富み，分類群を区分するに足る質的な違いは見いだせなかった。

コイワレンゲとレブンイワレンゲは同一の分類群であり，*O. malacophyllus* の北日本に産する地方型とみられる。Var. *malacophyllus* の基準産地のダフリアを中心とする中国北部，シベリア東部の個体とは，花弁のかたち，花弁よりも明かに長い雄しべをもつ点で区別される。しかし，九州北部には var. *malacophyllus* そのものが産する。このことは牧野富太郎 (1910) が最初に報告した。ゲンカイイワレンゲ *O. genkaiensis* Ohwi はこの異名となるので，var. *malacophyllus* にはゲンカイイワレンゲの和名が使える。北日本産，即ち var. *aggregeatus* にはアオノイワレンゲまたはコイワレンゲの和名がある。

□ 斎藤信夫：**花神巡礼—草木との語らい** 212 pp. 1990. たねの会（青森県東津軽郡蟹田町上蟹田 62-2). ¥1,500（税込). 種子の発芽に始まり生長・開花・結実・枯死と決まったように繰り返される植物の生活の様子を眺めていると，たとえば花の咲き出す時期や花のからくりにしても，種類によって違っていて，それぞれ最良の出番を知っているようにみえる。それは何か「花神」といったような者が教え導いているのではないかとさえ思われる。このように著者は書いているが，本書は青森県津軽半島の町で中学校の理科を担当した15年間に，同地方で観察した記録48項目（各独立）を収めた読物である。植物と仲よく接すること，自分の目で確かめることの喜びと共に，自然の奥深さを教えてくれる書物である。（伊藤　洋）